

高庵寺通信

大施食会のご案内

八月十六日(月)

午前十一時より

恒例の大施食会を、本年も八月十六日(月)午前十一時から開催いたします。

卒塔婆は、法要にて開眼して、初めて卒塔婆としての意味を持ちます。したがって、お渡しできるのは法要終了後(十一時四十分頃)以降になります。なお、安全上午後六時をもちまして施錠いたしますのでご協力ください。

墓参のお願い

住職より

墓参のマナーについて、まず除草した草等は必ず持ち帰ってください。その他供え物等も同じです。毎年、お盆の後で寺の者が早朝から境内を清掃し、大量の可燃・不燃のゴミで出し

ております。時節柄、それもだんだん難しくなってきました。既に限界になっております。特に、お団子、お菓子、供え物(胡瓜の馬等)は必ず持ち帰ってください。特に食べられる物が残っていると、カラス等が食い散らかし非常に不衛生です。皆様のご協力をおねがいします。

お盆の迎え方

新盆でどうしたらいいの

お盆とお彼岸について、一般的な内容を述べます。

なお、各家庭において、お家の事情等からも、これにこだわる必要はございません。要は故人や先祖を大切に作る気持ちが必要で、各々の流儀で心を込めて行えばそれで十分と思っております。

まず一般的には七月十三日を迎え盆として、十六日の送り盆までの四日間お盆の行事をしますが、足利では月遅れの八月十三日から十六日が一般的のようです。お盆を迎えるにあたって、ま

ず十三日の朝には、仏壇を清掃し、次に「精霊棚」を作ります。仏壇の前に小机を置き、その上に真菰(まこも)やすのこを敷きます。また仏壇の引きだしを、精霊棚にしつらえることもあるようです。

夕方には門口で、オガラなどで迎え火をたき、玄関に提灯をさげ、迎えダンゴを供えます。十四日には、なすときゅうりのごまあえなどを供えます。

十五日には「蓮飯」といって、蓮の葉にご飯を包んだものや、なすやきゅうりで馬や牛を作つて供えます。

なお、再度お願ひしますが、使用済みの馬や牛をお寺に持つてこないようお願いいたします。十六日には、門口で送り火をたきます。



精霊棚例

これは、一例ですが、こだわることではありません。

また、人が亡くなったあと、初めて迎えるお盆を、「新盆あらぼん」とか「初盆」といい、ていねいに供養します。

新盆は、普段のお供物の他に、故人の好物などを供えます。そして、親族や故人に縁のあった方を招き、僧侶に読経(棚経)してもらい、精進料理でもてなします。また、新盆には親族などから、盆提灯が贈られることがあります。

正式には、白い提灯に喪家の家紋を入れ、一対にして飾ります。

しかし、最近では、毎年使えるようにと、模様のある提灯を贈ることが多くなっています。

なお、高庵寺では施食会を大勢の僧侶で供養するため、住職も返礼で、盆中来ていただく寺院へ随喜するため、棚経は実施できません。

新盆の方は、施食会の際、白木のお位牌を個別にお祭りします。ので、ぜひ施食会の行事に参加されるようお勧めします。その他詳しい時間等は、同封の通知をご参照ください。